

報道資料

2023年2月17日

オンキヨー株式会社特許出願の発明「聴診器及び聴診システム」公開のお知らせ

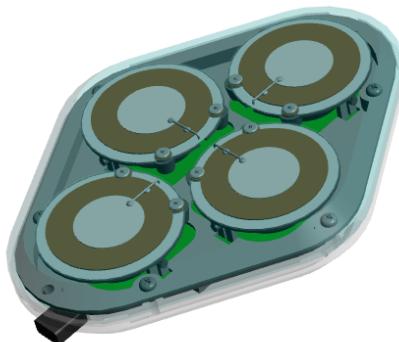
オンキヨー株式会社（所在地：大阪市中央区、代表取締役社長：大朏 宗徳、以下「当社」といいます。）は、特許出願しました発明「聴診器及び聴診システム」が、2023年2月2日に公開されましたことをお知らせ致します。

当社は、オンライン診療の需要に備え、家庭でも簡単に使用できる聴診器を目指し、聴診器の開発を開始しました。聴診器には、アナログ聴診器とデジタル聴診器がございますが、アナログ聴診器は、医師が対面で患者の心音等の聴診音を聞くためのものであり、オンライン診療には適しておりません。そのため、当社は、聴診音の録音が可能であり、録音した聴診音を遠隔の医師に送信すれば、遠隔の医師でも聴診音を確認すること可能である、オンライン診療に適したデジタル聴診器の開発を進めております。

公開された当社発明「聴診器及び聴診システム」（出願番号：特願 2021-120549、公開番号：特開 2023-016317）は、複数のセンサーを採用し、複数のセンサーの配置を工夫することで、安定した聴診音の採取を可能とする発明です。この発明は、同時に複数の音を取得できますので、各部位のタイミング・心音の血流の確認など、これまでの聴診器を超えた活用方法を提案しています。

この発明の採用にご興味がある場合は、下記の連絡先までご連絡ください。当社は、今回公開された発明以外にも、複数の発明を出願しており、今後も、種々の発明の出願を行っていく予定です。

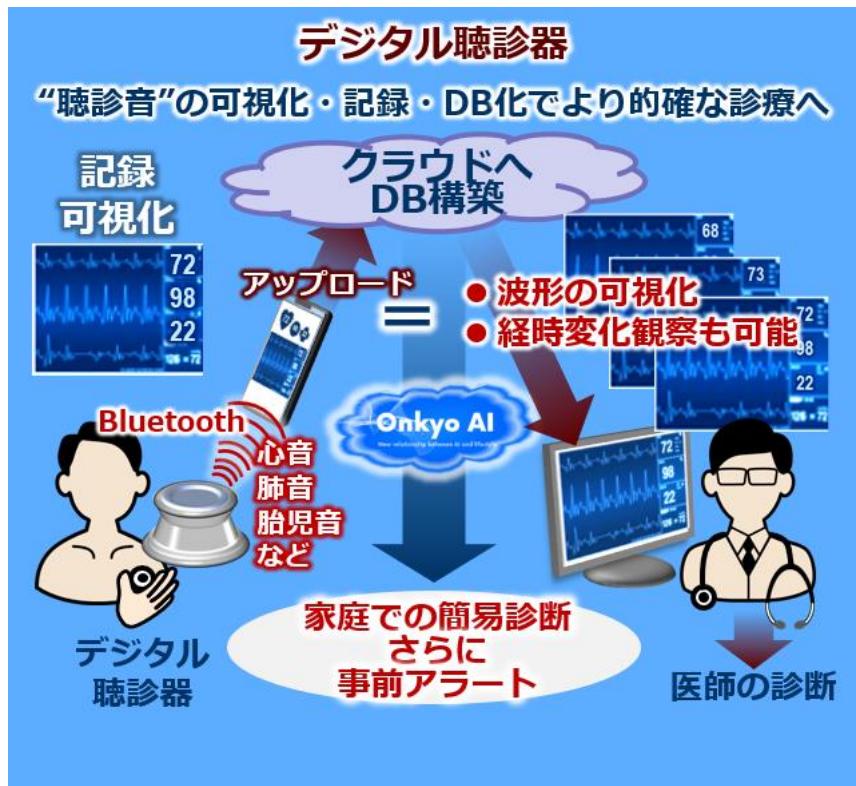
当社発明の概要図



当社は、Onkyo ブランドの音響機器の開発において長年培ってきた音に関する技術・ノウハウをデジタル聴診器の開発にも展開しております。例えば、アナログ回路技術、高周波技術、及びノイズ抑制技術は、デジタル聴診器における、超高感度低ノイズ回路に活かされています。スピーカー等で使われるアコースティック技術、振動解析技術、及び音響解析技術は、デジタル聴診器の筐体設計に活かされています。ソフトウェア処理技術、イコライザ技術、及び信号処理技術は、デジタル聴診器の測定対象物（例えば、心臓、腸、肺等）に応じた最適なフィルタ処理を行う技術に活かされています。

デジタル聴診器の開発には、専門的な知見が必須であるため、当社は、産学連携により、大学と共同で開発を行うことで、専門家の意見を取り入れたよりよいデジタル聴診器の開発を目指しております。

現在、当社では、デジタル聴診器で聴診音を取得し、取得した聴診音データをクラウドに蓄積し、蓄積した聴診音データをAIを活用して解析するシステムを開発中です。このシステムにより、より的確な診療を実現することが可能となります。



これからもデジタル聴診器の製品化に向けて開発を進めてまいります。

当社は、Onkyo ブランドのオーディオ製品やスピーカーの技術を支えてきた研究開発部門とマーケティング部門を新設分割し、これまでのオーディオ技術、ノウハウを新分野に展開しようと設立した会社です。当社は、「楽しむ音」から「役立つ音」へのスローガンのもと、老舗オーディオメーカーとして長年培った「音」の技術を、食品・医療などの新たな分野へ昇華させる取り組みを全社一丸となって行っています。当社は、今後も、このスローガンのもと、新たな取り組みを行ってまいりますので、デジタル聴診器を含め、当社事業の今後の展開に、ご期待下さい。

※このリリースに関するお問い合わせ先※

・報道関係の方：オンキヨー株式会社

経営企画部 知財法務課 多根 : yasuyuki.tane@jp.onkyo.com

※当社では、新型コロナ感染防止のため、テレワークを実施しています。お問い合わせの際は、メールにて担当者までお問合せいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

ホームページ：<https://onkyo.net/>